

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	安全で歩行者等にも優しい道路整備						掲載ページ		
							141		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		3,950,633	千円	-	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	道路計画課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	市民の生活に密着する生活道路の歩道整備を行い、歩行空間の安全性や快適性、利便性の向上を図り、望ましい都市環境の創出を推進します。	活動実績	下活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	市民の生活に密着する生活道路において、歩行空間を確保するための歩道や防護柵の整備を行い、道路の維持修繕を行って、安全で歩行者等にやさしい道路整備を実施します。						
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	暮らしに身近な道路整備		5,832 m	住民要望等に応じて処理	4,869 m	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	公園や学校周辺、その他地域の活動や市民の生活に密着する生活道路を対象に歩道の整備や防護柵等の設置を実施します。 （最終目標と最終年度）						
	安全で歩行者等にも優しい道路整備		13,648 件	住民要望等に応じて処理	14,625 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調
市民の生活に密着する生活道路において、要望を受け、道路の維持修繕を実施します。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	道路の維持修繕について多くの市民要望を受け、安全な歩行空間を確保するため維持修繕を実施したことから、順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	道路の維持修繕において、緊急時にも対応できるよう緊急業者を選定し、迅速な対応に努めました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

市民の生活に密着する生活道路において、市民要望を受け、歩行空間を確保するための歩道や防護柵の整備や道路の維持修繕を実施して、安全で歩行者等にやさしい道路整備を推進します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	人にやさしいまちづくりの推進							掲載ページ	
								141	
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	保健福祉局
		5	千円	532	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	総務課

【Plan】計画 →

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 子どもから高齢者まで誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して快適に生活できる「人にやさしいまち」を実現するため、年齢や障害の有無などの違いを相互に理解し、尊重し合う「心のバリアフリー」を推進するための啓発事業や情報提供を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	人にやさしいまちづくり週間（バリアフリーウィーク）の実施や人にやさしいマークの普及など、心のバリアフリーの推進に向けた市民啓発、情報提供等の取り組みを行います。		

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	活動指標	バリアフリーウィーク関連事業の参加延べ人数 「心のバリアフリー」への関心を向上させる契機としての啓発機会をどの程度提供できているかを図るため、バリアフリーウィーク関連事業の参加人数を活動指標とします。 (最終目標と最終年度)20,000人／平成26年度	26,180 人	20,000 人	27,074 人	
				135.4 %	大変順調	
	(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	当初計画どおり、バリアフリーウィークや人にやさしいマークの配布等、各種啓発事業を実施しました。多くの市民がバリアフリーウィーク期間中の各事業に参加し、バリアフリーについて考える機会になりました。本事業の実施によって人権尊重の精神につながる「心のバリアフリー」が推進されているものと考えます。
	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	関係団体がそれぞれ行っているバリアフリーに関連するイベントや啓発活動について、人にやさしいまちづくり週間（バリアフリーウィーク）を設定し、期間中に集中してPR・啓発することにより、低いコストで効果的な啓発が行えるよう努めています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

これまでの実施事業の内容や成果についての検証を行いながら、人にやさしいまちづくりを推進する事業を行いたいと考えています。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	バリアフリーのまちづくりの推進						掲載ページ		
							141		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		876,201	千円	1,068,000	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	道路計画課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	急速な少子高齢化の進展に対応するためには、高齢者や障害者など誰もが安全で快適に活動できるバリアフリーのまちづくりが求められています。本事業は、バリアフリー新法にも対応したよりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。					
活動計画	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図っていきます。						
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	歩道整備延長	5,341 m	5,000 m	5,185 m	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行うことが、歩いて暮らせる街づくりに繋がると考え、歩道の整備延長を活動指標としました。 <small>(最終目標と最終年度)</small>			103.7 %			
					順調	順調	
<small>(最終目標と最終年度)</small>				やや遅れ			
				遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」「効率性」 の分析	<p>活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展しています。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続することが必要であると考えます。現在、道路計画課の担当係長及び職員が主体的に「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」と調整等を行い、各区において適切なバリアフリー整備に取り組みるとともに、東西整備事務所及び各区まちづくり整備課において、歩道整備や歩道の段差解消等の改修を行っています。</p> <p>本市は平成9年度の小倉都心地区のモデル地区から、市民との協働によるバリアフリーのまちづくりを行っております。現在もバリアフリー化については「まちづくりネットワーク」と現地点検や意見交換会を行いながら、事業を進めています。なお、現在のところ、歩道の新設、改良については他の事業主体は考えられないため、実施主体は市が適当だと考えます。</p>

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
平成26年度も引き続き、「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」との意見交換会や公共施設周辺のバリアフリー現地点検を実施し、その結果をハード整備に反映させながらバリアフリー化の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	JR既存駅に対する昇降装置設備支援事業						掲載ページ		
							142		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建築都市局
		2,668	千円	10,000	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	都市交通政策課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	「バリアフリー新法」に基づき、JR駅のバリアフリー化を推進します。あわせて、公共交通であるJR駅をバリアフリー化することで、子どもや高齢者等交通弱者の移動の円滑化を図ります。						活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	安部山公園駅のバリアフリー化に向けた検討及び協議を行います。										
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】				
	バリアフリー化整備対象駅（5千人以上／日）13駅 [H13～H22]		13 駅	13 駅	13 駅	100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	バリアフリー新法施行令、移動等円滑化の促進に関する基本方針（国土交通省）による （13駅整備完了、平成22年度）										
	バリアフリー化整備対象駅（3千人以上／日）2駅 [H23～H32]		-	-	-	-	順調 やや遅れ 遅れ	順調			
バリアフリー新法施行令、移動等円滑化の促進に関する基本方針改正（国土交通省）[H23.3.31告示]による ※対象駅の2駅は、安部山公園駅及び折尾駅 （最終目標と最終年度）											

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	バリアフリー新法に基づき、一日あたり利用者が5千人以上の駅を対象に、平成22年を目標に、バリアフリー化を進めてきた結果、整備対象である13駅のバリアフリー化が完了しています。また、駅のバリアフリー化を図ることで、子どもや高齢者等にとって、利用しやすい交通施設になり、有効性は高いと考えます。 平成25年度は、安部山公園駅舎外のエレベーター設置に必要な国道10号の歩道拡幅整備やその施工方法等の方向性について国や交通事業者等の協議を行ない、実施に向けて順調に進んでいます。							
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市のほか、国・交通事業者が事業費を負担する制度となっており、可能な限りの財源対策を講じています。							

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

平成23年3月31日告示の「バリアフリー新法」基本方針改正を踏まえながら、適切に対応していきます。
また、安部山公園駅について、平成26年度は今後の具体的な事業計画を策定するため、国や交通事業者をはじめとする関係機関との協議、調整を進め、バリアフリー化の早期実現に向けた取り組みを行います。
折尾駅については、折尾総合整備事業の中でバリアフリー化に取り組んでいきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	バリアフリー環境整備促進事業						掲載ページ		
							142		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建築都市局
		0	千円	0	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	建築指導課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	バリアフリー法の認定を受けた建築物で、その建築物内の不特定かつ多数の人が利用する施設（商業施設等は除く。）に至る移動システム等の整備にかかる費用の一部を補助することにより、妊産婦や子ども連れ、高齢者及び障害者等が利用しやすい優良な建築物の整備を促進します。					
活動計画	制度の周知や利用促進をし、優良な建築物の整備を行う民間事業者に対し、建設費の一部を補助します。						
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	制度の周知と利用促進			-		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	バリアフリー法に関する情報提供を、市ホームページへの掲載や窓口でのパンフレットの配布等により行います。 （最終目標と最終年度）	-	-	-	%		
	（最終目標と最終年度）					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	
	（最終目標と最終年度）					順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	情報提供等を行っています、バリアフリー法の認定を受けようとする民間事業者が少なく、制度を利用するまでに至っていません。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事業実施がないため評価はできませんが現状維持でよいと考えます。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
引き続き制度の周知や利用促進のため、バリアフリー法に関する情報提供を市ホームページへの掲載や窓口でのパンフレットの配布等により行います。